
新世界をさがして

あかふくもち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新世界をさがして

【Nコード】

N0684J

【作者名】

あかふくもち

【あらすじ】

拙作「新世界より」を執筆する過程で悩んだことなどを中心に、エッセイ風（あくまで風）に書き出してみました。自分の小説を書くスタイルや至らなさをを見直そうという試みでもあります。

執筆の訳にたつようなお話はまったくありませんが、あかふくもちが右往左往する姿を半笑いで眺めていただければ、幸いです。

本編の内容にふれて（早い話がネタバレ）おりますので、ご注意

くだらぬ。

第一回 サダルスウドを黙らせる（前書き）

拙作「新世界より」を執筆する過程で悩んだことなどを中心に、エッセイ風（あくまで風）に書き出してみました。

自分の小説を書くスタイルや至らなさをを見直そうという試みでもあります。

執筆の訳にたつようなお話はまったくありませんが、あかふくもちが右往左往する姿を半笑いで眺めていただければ、幸いです。

本編の内容にふれて（早い話がネタバレ）おりますので、ご注意ください。

第一回 サダルスウドを黙らせる

大陸中央に位置するサン・スフィード王国。

その王都の中心にある王城に、リドルはいた。

厳密には城壁の中という表現が正しい。宮殿の中ではなく、西の
はずれのしげみの中に、相棒であるサダルスウドとともにひそんで
いた。

「本当にあいつらで大丈夫なのか」

サダルスウドが、宮殿に目をむけて言った。

黒い髪に褐色の肌の、目付きの鋭い少年である。への字にゆがめ
た口がいかにも気難しそうで、近寄りがたい雰囲気醸し出してい
る。口からでた心配そうな声音はどことなく生真面目で、彼生来の
気質をよくあらわしている。

「大丈夫、大丈夫。つーか、危ないのはどっちかっていうとオレた
ちの方だし」

リドルは作業中の手元から顔をあげずに、気楽にひらひらと手を
ふった。

それに合わせて、金色の髪がさらさらと左右にゆれる。一目する
と短髪に見えるが、真後ろから見ると、ひとくりにしたおくれ毛
がとても長く、まるで尻尾のように伸びているのがわかる。

「しかし、いくら服装でごまかしても、しゃべればすぐボロがでる
んじゃないのか」

「そんなときはそんなとき。連中でなんとかするさ」

「……一国の姫を誘拐しようという計画が、そんな行き当たりばっ
たりでいいのか？」

「はい、こっちは終了」

「聞け！ 人の話を！」

向けていた背中を軽く蹴られ、

「おいおい、動き出したらどうしてくれんだよ」

リドルは振り返って、手に持っていたナイフ程の長さの筒状の「装置」を見せながら口をとがらせた。

言葉の内容こそ非難がましいが、リドルの口調は明るく、表情には険がない。

大きないたずらっぽい目元に口角のあがった愛嬌のある顔立ちをしているのがその要因だろう。決して美少年ではないが、笑ったところがみたくなる、そんな人好きのする雰囲気と気安さがリドルからはただよっていた。気難しそうなサダルスウドと比べると、まさに陰と陽といった対称性である。

二人は今、ある作戦の只中にあつた。

大陸極東の大国シスラナの姫君ヒナタを、できるだけ派手にこの城から連れ出すこと。それが彼らの今回の「仕事」である。

リドルとサダルスウドが、ここで派手に騒ぎを起こして城の注意をひきつけ、その隙に姫君をつれた仲間が逃げるといふ、いわゆる陽動作戦だ。

昼のうちに、荷馬車に身をかくして侵入してきた彼らは、それぞれの持ち場にちり、自分の出番を待っている。おあつらえむきに今は精霊祭の季節なので、普段は出入りしないような業者が多く登城していて、見慣れぬ人間がさほど不自然ではない。そこにまぎれこんだというわけである。

リドルとサダルスウドは、二人という限られた人数で、できるかぎり派手に警備兵たちをひきつける必要があるため、仲間から提供された特製の魔導装置を茂る木々や低木のいたるところに設置している最中だった。

「じゃ、オレあっちの方に仕掛けがてら、親方の言ってた古井戸つてのを確認してくるわ。すぐ戻るけど、こっちよろしくたのむな」

リドルは言って、周辺に転がしてあった筒状の装置をいくつか抱えて立ち上がった。

サダルスウドが片手をあげて応じるのを後ろに、身をかがめてしげみとしげみの間を移動していく。

すぐそばに見える城の西棟は、宮殿や、宝物殿がある東棟に対して、城の西棟は、図書室や音楽室、ダンスホールなどが多く、夜間には人がほとんどいないため警備も比較的手薄なのだという。

(このあたりにも付けとくか)

リドルは立ち止まり、木の枝に手を伸ばし装置をくくりつけた。その時だった。

木々の間から見える西棟の灰色の壁に、明らかに異質なものがゆれているのがみえた。

マント? いや、ちがう。

リドルは思わず隠れるのを忘れて、しげみから身を乗り出した。

ちょうど三階の高さあたりに、月明かりに照らされながら、壁にしがみついているのは人だった。

なんで物語開始第一声がサダルスウド?

と、今思い返せば首をひねるばかりの、「新世界より」第一稿。ばっさりカットして、リドル移動中からはじめることにして現在の形に落ち着きました。

私はどうも冒頭を書くのが苦手で、よけいなものをべたべたとくつつけて贅肉だらけにしてしまうところがあります。

読み始める前、読者の方の頭の中はまだまっしろなので、状況や

人物や世界を理解してもらうためにあわてて情報をつめこもうとしてしまいます。

このときも、リドルとサダルスウドの性格や容姿、関係、おかれている状況や目的なんかをすぐに説明したくてうずうずしていたため、書きすぎてしまいました。

この冒頭の会話シーンをカットしても、実はまだ地の文章の中でリドルの目的をだらだら説明してしまっているのです、機会があったら書き直したいなあと思っております。っていうのを今書いて思い出しました。メモしておこう。っていうかメモしなくてもここをみればいいのか。そうか。

最初は多少謎があっても物語に動きがあれば、とりあえずは読みすすめてもらえるような気がします。で、少しずつ説明をしていて世界を理解してもらおうのが私の中では理想なのですが、つい出せるチャンスがあると張り切って書きすぎてしまう。けれど、出し過ぎるのを気をつけていると、説明が足りなさすぎて読者を置いてけぼりにしてしまう。なんてさじ加減が難しいのだろうと日々頭を悩ませております。

なにしろ自分は物語のすべてを理解しているので、推敲のときに読んでみてもなにが足りていてなにが足りないのかピンとこない。

読者としての自分を置き換えてみるとけっこう説明系統の地の文章を読み飛ばすことが多い（すみません）です。けれど、話の筋を見失うことはあんまりありません。なんでかということ、ちゃんとその情報が必要な時に、作者さんがもう一度軽く説明してくれている場合がほとんどだからです（さすが）。

理屈までは一度しか説明してくれないものの、どっという前提で話すすんでいるかについて再度書いてくれるので、話からおいていかれずにすむのです。

そういう作者さんの心遣いを目の当たりにすると、すごいなあ見

習いたいなあと思います。

で、さんざん悩んだあげく、とにかく第一章では特に詳しく説明はしないことに。

物語に動きを付けて、とりあえず読者の方に読んでもらえる第一章を目指しました。

台詞や仕種の描写だけでなるべく性格を察してもらおうには気をつけながら、世界観の説明は二章以降へ。

それがうまくいったかは微妙なところなのですが（読み返してみると、内容はともかく肩に力がはいりすぎて文章がつまりすぎているので……）

第一章はボーイ・ミーツ・ガールに専念することにしました。

……というような感じで、拙作「新世界より」を書くにあたり悩んだことや気をつけたことをちょこちょこ書いていきたいなと思いい立ち、エッセイにしてみました。

現在「新世界より」の続編を執筆中なのですが、あまり筆がすまず「そもそも小説ってどう書くんだっけ？」と立ち尽くしてしまっている状態です。書き出すことで少しでも思いたそう。ついでに公開したら、誰か優しい方が私の悩みにこたえてくれるかもしれないという、非常に他力本願な発想からだったりします。

そんなわけで、「それはこうしたらいいんじゃない？」とか「それじゃダメだろ！」など、「ご意見アドバイス叱責、あれば是非是非お声おかけください。

それでは、ここまで読んでいただきありがとうございますとございました。

次回 美少女っておいしいの？（どんなタイトルだ）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0684j/>

新世界をさがして

2010年10月12日06時32分発行